

## 齒並びのきれいな女の子

イトウワカナ

真夏。

山中家の居間。そのむこうには、食卓テーブルが見える。テーブルの上には、缶のいれものや新聞が置いてある。生活感のある部屋。

奥から玄関のあく音が、  
がさがさと紙袋や、靴を脱ぐ音がする。

母・みずえ、長女・まいこ、長男・しんじの順で部屋に入ってくる。  
3人とも、喪服。

みずえ　はい、おつかれさまでしたー。(誰に言うでもなく)

みずえ、荷物をそのへんに置く。  
置いてすぐに、着替えに去る。

まいこ　暑い。  
しんじ　暑い。

まいこは、テーブルの上にあったいれものから、飴を取り出して食べる。

まいこ　青りんご。

それから、窓をあけて、ソファに座る。  
少ししたのち、テーブルの上にあるアルバムをめくりだす。  
しんじは、荷物を食卓テーブルへ置き、座る。  
すぐ立ち上がり、冷蔵庫から麦茶を出し、コップに注ぐ。飲む。

しんじ　姉ちゃん、麦茶飲む？  
まいこ　うん。

しんじ、まいこの麦茶を入れる。  
まいこのところまで持つて行く。

しんじ　はい。  
まいこ　ごっつむ。

まいこ、麦茶を飲む。  
痛そうな顔をする。

しんじ　また歯、痛いのか？  
まいこ　うん。  
しんじ　旦那、歯医者でしょ。  
まいこ　そうだけど。  
しんじ　治してもらいなよ。  
まいこ　新しい虫歯なんだもん。

アルバムを見る。

しんじ　(写真をさして)これ、姉ちゃんいくつ？  
まいこ　いくつかなあ。2、3歳？  
しんじ　歯、ボロボロ。  
まいこ　ひどいよねえ。

ぺらぺらとアルバムをめくる。  
まいこ、飴をたべる。  
しんじも、つられて飴をたべる。

しんじ　結構疲れたね。  
まいこ　うん、疲れた。  
しんじ　お母さんさ、  
まいこ　うん。  
しんじ　…大丈夫かなあ。  
まいこ　…大丈夫そうだよ。  
しんじ　そっ？  
まいこ　ごはんも作ってくれてるんでしょ。  
しんじ　うん。最近はちゃんとやってる。  
まいこ　じゃあ、大丈夫。何もできなくなっちゃう人とか、いるんだから。  
しんじ　そうだよね。  
まいこ　お父さん、ちゃんとしてってくれたし。  
しんじ　そうだね。…そうなの？  
まいこ　たぶん。

沈黙

しんじ　お墓の中、みた？  
まいこ　ちらっと。  
しんじ　ああいうふうになってんだね。  
まいこ　うん。  
しんじ　せまそうじゃない？  
まいこ　せまいでしょうよ。  
しんじ　だよねえ。  
まいこ　せまいと思うよ。  
しんじ　だよね。  
まいこ　うん。

しんじ …姉ちゃんさ、  
まいこ うん。  
しんじ もうちよつと、いれば？  
まいこ 実家に？  
しんじ うん。  
まいこ そうだね。  
しんじ そうしてよ。  
まいこ うん。

二人とも、黙ってアルバムを見る。

しんじ あ、これ、吉田さん？  
まいこ そう。  
しんじ やっぱり今の吉田さんとは結びつかないよねえ。  
まいこ このころ、ふさふさだもんね。  
しんじ 僕、ふさふさの吉田さん知らないんだよね。  
まいこ (さすがに) おぼえてないでしょう。  
しんじ いつまでふさふさだった？  
まいこ いつかなあ…気づいたらもう、なかったような。  
しんじ そうなんだ。  
まいこ ふさふさの姿がうつすらしてる。  
しんじ 父さんは、変わんないね。  
まいこ ……そうだねえ。変わんないね。

まいこ、しんじ、飴をかむ。  
ぼりぼりと音がする。

しんじ あ。飴食べちゃった。  
まいこ ん？  
しんじ 食べないようにしてるの。甘いもの。  
まいこ なんて。  
しんじ 虫歯になるでしょ。姉ちゃんみたいにガチャ歯はいやだもん。  
まいこ 自分だってガチャ歯だったくせに。  
しんじ 僕はなおしたもん。

と、しんじは立ちあがって去る。

まいこ、つづけてアルバムを見る。  
麦茶を飲んで、痛そうな顔をする。

しばらくして、  
みづえが着替えて戻ってくる。  
食卓テーブルの上の袋を覗く。

みづえ お弁当、だいぶ余っちゃったねえ。  
まいこ ゆきこおばさんちの分でしょ。  
みづえ ゆきこさんとこ、大丈夫だろうか。  
まいこ 誰、倒れたの？  
みづえ ゆきこさんの旦那さんのお母さん。

まいこ ふうん。  
みずえ 晩もお弁当だね。まいこ、ごはん食べてくでしよ。  
まいこ うん。  
みずえ 光男くん明日仕事？  
まいこ そうだよ。明日月曜日だもん。  
みずえ そうか。

会話の途中で、しんじが歯ブラシをくわえて戻ってくる。  
うろろしながら、歯をみがく。  
まいこはアルバムに目を落としたまま。  
みずえ、冷蔵庫から麦茶を取り出してコップに注ぎ、食卓テーブルへ座る。

みずえ (しんじに) 歯磨く前に、着替えたら？  
しんじ あとで。

みずえ まいこも、着替えたら。  
まいこ (振り返って、しんじを見て) 歯みがきしてたの？  
しんじ そう。

みずえ (みずえに) こんなしよつちゆう歯磨いてたっけ？  
しんじ 歯、なおしてからだよね。

みずえ うん。  
しんじ へえ。  
みずえ 習慣つけ、するんだって。

しんじ 大事でひよ。  
みずえ 飴、いっこで、歯みがくの？  
しんじ 飴が虫歯の犯人だから、だって。  
みずえ わかるでひよ。

しんじ だけど、飴いっこだよ？  
みずえ だらら、ねえひゃん、それそれらはひらったんら。(だから、姉ちゃん、それでそんな歯になっ  
たんだ)  
みずえ 何いつてるかわかんない。

しんじ どうさんも、いつてたれひよ。は、ひがれっへ。(父さんもいつてたでしよ。歯磨けって)  
みずえ :言つてたけど。:いっこ食べたぐらいじゃ虫歯なんかならないよ？

しんじ ゆいほんは、ひいらほうあいお。(遺言はきいたほうがいいよ)  
みずえ なに？  
しんじ ゆいごんふあ、きいたほうがいいほ！

と、しんじ、よだれが落ちそうになって、あわてて去る。

まいこ すこい。  
みずえ マメな子よねえ。  
まいこ わたしにはできない。  
みずえ 無理だね。  
まいこ うん。

みずえ しんじも歯、きれいになったね。  
まいこ 大人になってからやっても、結構ちゃんとなるんだね。  
みずえ 矯正？

まいこ うん。  
みずえ あんたもやれば？  
まいこ わたしはいいよ。

みずえ 光男くんにやってもらったら安いんじゃないの？  
まいこ ちよつとはね。  
みずえ やってもらえばいいのに。  
まいこ 安かったって、お高いんだよ？  
みずえ 光男くんに言われたくないの？  
まいこ なんて？  
みずえ あんたのガチャ歯。それ、光男くん直してほしいんじゃないの。  
まいこ そうみたいけど…  
みずえ でしょう？嫁になる子がそんなガチャ歯だもん。光男くん歯医者さんだもん、厭でしょう。  
まいこ 直せとは言われてるけどさ。  
みずえ 直せばいいのに。  
まいこ 高いんだって。  
みずえ ちよつとは安くなるんだから。  
まいこ いいんだって。  
みずえ お父さんだって、あんたの歯並び心配してたんだよ。まいこはガチャ歯だから、歯磨きいっぱいしなさいって言われてたでしょう。  
まいこ うん。死ぬ前まで言ってた。  
みずえ ほら。  
まいこ なに。  
みずえ お父さんの遺言だって。  
まいこ いいんだって。  
みずえ ほんとに？  
まいこ いいんだって。これで。  
みずえ あ、そうですか。

みずえ、ひとくち麦茶を飲む。

みずえ 着替えたら？  
まいこ 着替え、持ってくるの忘れちゃった。  
みずえ あら、そう。  
まいこ 今日は、帰るわ。  
みずえ ごはんは食べてくんでしょ。  
まいこ うん。

まいこ、少し考えて、

まいこ 明日からまた、こつち帰ってくる。  
みずえ うん。助かるわ。  
まいこ まだやること、あるのかな。  
みずえ そうだねえ。どうなんだろうね。  
まいこ 遺言書、あけてからだね。  
みずえ そうね。  
まいこ …着替えて持ってくればよかった。  
みずえ そうでしょう。  
まいこ まだまだ今日やることあるんだった。  
みずえ そうよ。遺言、あけなきゃ。  
まいこ 何で今日なんだろう。  
みずえ 納骨だからでしょ。  
まいこ ほんとに？

みづえ わからないけど。  
まいこ 大輔が持つてるんでしょ。  
みづえ 遺言？  
まいこ うん。  
みづえ そう。何時にくるんだか。  
まいこ ねえ。  
みづえ 線香、あげといで。  
まいこ うん。

まいこ、部屋から出て行く。  
みづえ、麦茶を飲む。

しばしの、間。

まいこ戻ってくる。  
飴を食べる。

まいこ ラムネ。

まいこ しんじ、まだまだよね。線香。  
みづえ うん。

まいこが飴をかじる音がする。  
どちらも何もいわない。  
そのうち、  
玄関のあく音。  
靴を脱いだりする音。

みづえ あら、光男くん帰ってきたかな。おかえりー（少し大きい声で）  
光男（声） おじゃまします。

と、光男はいつてくる。

まいこ おかえり。  
みづえ お疲れ様。ありがとうね。  
光男 いえいえ。  
みづえ 座って。（ソファをすすめる）  
光男 あ、すいません。  
みづえ 麦茶でいい？  
光男 はい。すいません。

みづえ、麦茶をいれに台所へ。  
光男はソファに座りテーブルに車のキーを置く。

まいこ 暑そう。  
光男 暑いよ。なんか暑くなってきた。外。  
まいこ うわあ。  
光男 あー暑い。  
まいこ きよしおじさん、うるさくなかった？

光男  
まいこ  
（少し笑って）よくしゃべるね。  
でしょ。

光男  
みづえ  
駅までの間、ずっと喋ってたよ。  
なにか聞かれたりした？

光男  
まいこ  
まあ、いろいろと。  
なに？

光男  
まいこ  
まいことどこで会ったんだとか、いつ結婚すんだとか。  
喪中だって。

光男  
みづえ  
（麦茶を運んでくる）で、結局きよしさんの話でしょ。  
そう。そうなんですよ。あ、（麦茶）いただきます。

光男  
みづえ  
だと思っただ。いつもそうなんだから。  
いっつもだよねえ。

光男  
みづえ  
何回も同じ話してね。結局なんて答えたの？  
なれそめですか？

光男  
みづえ  
なれそめ、しゃべったの？  
一応。

光男  
まいこ  
なんて？  
まいこは、僕の患者さんだったんですって。

光男  
まいこ  
それだけ聞くとなんかドラマチック。  
でしょ。ほー！って言ってたよ。

光男  
みづえ  
なにそれ。（笑う）  
結婚の話は？

光男  
みづえ  
ええと、落ち着いてから再度考えますって、答えました。こんな状況だし、できないですからね、  
結婚なんて。ね？（まいこに）

光男  
みづえ  
：うん、そうね。  
そうねえ。

光男  
みづえ  
（麦茶を飲む）あーうまい。

しんじ、戻ってくる。

光男  
しんじ  
あ、おかえりなさい。（光男に）  
ども。

光男  
みづえ  
おじさん、しゃべりっぱなしだったでしょ。  
いま、その話してたの。

光男  
しんじ  
駅までずっと喋ってた。  
やっぱり。僕送っていけばよかったね。

光男  
みづえ  
大丈夫、大丈夫。楽しかったよ。  
お父さんの兄弟、みんなああなの。おしゃべり。

光男  
みづえ  
そうなんですか。  
お父さんだって、しゃべるほうよ。男の人にしたら、ねえ。（まいこに）  
そうだねえ。

光男  
みづえ  
きよしおじさん、帰っちゃってよかったの？  
どして？

光男  
みづえ  
いや、だって。これから、遺言？あけるんでしょう？いなくていいの？  
いいみたいよ。面倒くさいことは厭なんだって。

光男  
しんじ  
ふーん。  
財産で財産もないんだし、いいんじゃないの。

光男  
しんじ  
まあねえ。

携帯の呼び出し音が鳴る。

しんじ

あ。

と、ポケットから携帯を取り出す。  
電話に出る。

しんじ

もしもし？あーうん、大丈夫…

と言いながら、部屋から出て行く。

まいこ

(しんじを見ながら) 騒がしいねえ。

みずえ

落ち着がないもんね。

光男

忙しいのはいいことですよ。

みずえ

たいして忙しくなんかいないんだから。

皆 麦茶を飲む。

光男

今日のお坊さん、

まいこ

うん？

光男

この前もあの人だったっけ？

まいこ

そうだよ。住職。

光男

そうだったよ。

まいこ

同じ人だよ。

光男

なんか、違う感じ、しなかった？

まいこ

今日、声高かったよね。

光男

そう！それだ！

みずえ

声？

光男

高かったんですよ、今日、声。

みずえ

そう？

まいこ

高かったよねえ。上ずってた。

光男

だからさ、俺、違う人なのかなって思ってた。

まいこ

一緒、一緒。風邪でもひいたんじゃないの。

みずえ

わたし、全然気付かなかった。

まいこ

ほんとにー？

みずえ

うん。全然。わたし、お教に集中してたから。(少し得意げに)

まいこ

またあ。しんじ、笑ってたんだよ。

みずえ

しんじ？笑ってたの？なにに？

まいこ

住職が声裏返ったときに、プツて噴き出した。

みずえ

やだあ。

光男

あれ、しんじくんだったの？俺、まいこが噴き出したんだと思ってた。

まいこ

わたし、そんなことしないよ。

光男

罰当たるぞ、って思ってた。しんじくんだったのか。

みずえ

ねえ。お父さんに怒られる。

まいこ

ほんとだよねえ。

みずえ、光男、麦茶を飲む。

まいこ

吉田さん、何時にくるって？



みずえ  
まいこ  
着替えてきますって言ってたから、もう来るんじゃないの。  
そう。

まいこ、  
麦茶をのむ。

みずえ  
まいこ  
工場、吉田さんにまかせようと思ってたんだけど。  
…これからのななし？  
うん。お母さんとしてはね、それがいいかなと思ってたんだけど。

まいこ  
みずえ  
吉田さんに話したの？  
話してないよ。ちらって言ったかもしれないけど。  
どっちさ。

まいこ  
みずえ  
話してない。  
遺言書次第ですよ。

光男  
そうなの。

そりゃそうだよ。

だって、最初の遺言に書いてると思うでしょ、こっちは。だいたい2つもあるなんて思わない  
でしょ。

うん。

まいこ  
光男  
1通目の遺言書って、いつもらったんですか？

みずえ  
お父さん死んじゃう2日前ぐらいかなあ。ついこないだのことなんだけどね。

まいこ  
みずえ  
そうだね。

遺言だって渡されて、死んだらあけろっていうでしょ。あーお父さん、もうすぐ死んじゃうんだ  
なあって思ったの。わたし。悲しかったけど、嬉しかったの。ちゃんと家族のこととか、工場の  
こととか、考えてくれてるんだなあ。遺言、あけたのいつだった？（まいこに）

告別式終わった日の夕方。

そうだったかい。

そうだよ。

まいこ  
みずえ  
いざ開けてみたら、全然大したこと書いてないんだもん。すぐ工場はじめるなんて書いてるし。  
わたしには再婚してもいいだの、まいこは歯を磨くようにだの。

光男  
なんだっけ。歯医者と結婚できて良かったな、だっけ。

まいこ、  
歯医者と結婚できて幸せ者だな。歯並び悪いからな。

よく覚えてるね。

しんじは早く結婚しろ、とか。彼女いないのかとか。

普通の手紙でしたね。

そうなの。大事なこと書いてないの。遺言だっていうから身がまえてたのに。

あれは遺言じゃないでしょ。ねえ。（光男に）

そうだね。遺言、ではないね。お手紙、だね。

そうよね。

でもきつと、今日あける遺言に書いてますよ、全部。

だいたい、なんで2つもあるのよ。遺言書が。

書ききれなかったんじゃないですか、お父さん。

それにしてもふたつにわけることないと思わない？

まあ。

…どうしたいのかしらね、お父さん。

光男  
みずえ

まいこ

光男

みずえ

沈黙

まいこ  
お父さん、工場続けたいんじゃないの？吉田さんにまかせたいんじゃないの？

みずえ  
わたしはね、わたしはよ。わたしは、しんじが継いでくれればいいと思うんだけどね？



しんじ  
みずえ 優作だ。  
吉田さんじゃないの？（しんじに）

まいこ、しんじを見送って、

まいこ あー着替え持ってくればよかった。  
うん。

光男 窮屈でしょう。しんじの服でも借りる？

光男 いえいえ、大丈夫です。

まいこ 飴とってー。（光男に）

光男 また食べるの？

まいこ いいんだもん。

光男 飴を取ってまいこに渡す。  
まいこ、飴を食べる。

まいこ

シャワー。

光男

シャワー？

まいこ

飴の名前。光男くんも食べなよ。おいしいよ。

光男

俺は、いいよ。

まいこ

そ。

玄関のほうから、しんじと優作が入ってくる。

優作は紙袋を持っている。

まいこ

あ、ほんとだ。優作。

優作

お邪魔します…

みずえ

あら、優作でしょ。どしたの？吉田さんは？一緒じゃないの？

優作

いや、もう来てると思っただけです…あ、これ、お袋からです。（紙袋をみずえに渡す）

みずえ

まーすいません。（中をみて）さくらんぼ！おいしそー！

優作

親父に持たせたのに忘れてっちゃったんですよ。それで。

みずえ

わざわざありがとうございます。お母さんにお礼いっておいて。

優作

はい。

みずえ

ほら、座っていきなさい。麦茶でいい？（麦茶をいれに行く）

優作

あ、すいません。

まいこ

どうぞー。

優作

あ、すいません。

優作座り、光男と目があう。

優作

あ、こんにちは。

光男

こんにちは。…吉田さんの。

優作

そうです。

光男

ああ、先ほどはお疲れ様でした。…あれ？納骨のときいたよね？

優作

あ、はい。いました。

まいこ

ありがとうございます。

優作

いえ。当然ス。

みずえ、麦茶のコップをテーブルに置き、お辞儀をして、

みずえ

先ほどありがとうございます。

優作

いえ。とんでもないス。

みずえ

吉田さん、どこいったの。

優作

さあ。携帯かけても出ないんですよね。あ、ありがとうございます。(表茶)

みずえ

(光男に) 昔、うちの工場でバイトしてたのよ、優作。

みずえ、言いながら台所へ戻る。

光男

そうなんですか。

優作

ちよっとだけですけど。高校んとき。

まいこ

超家族経営でしょ。

光男

確かに。

まいこ

何年やってたっけ？

優作

2年…ぐらいかな？

光男

へー。自分のお父さんが上司だったんだ。

優作

まあ、そうすね。

まいこ

でも吉田さんに指示されるたびに逆ギレしてたけどね。

優作

それは、ほら、若気の至りってやつで。

光男

しようがないよ。一緒に働くだけでえらいよ。

優作

そうすか。

光男

そうだよ。俺なら無理だなあ。

優作

そうすか。

まいこ

あれ？しんじも一緒にやってたよねえ？

しんじ

うん。

光男

しんじくんもバイトだったの？

しんじ

ううん。手伝い。

光男

じゃ、バイト代でないんだ。

しんじ

そのかわり、月のお小遣いがちよっと多い。

光男

へー。

まいこ

わたしそんなのなかった。

しんじ

マジで？

まいこ

なかったよ。手伝いなんだから見返りはないって言われてたもん。

しんじ

そうなんだ。

まいこ

なんか損した気分。

みずえ、さくらんぼの入った皿をテーブルに置きながら、

みずえ

あんた、たいして手伝ってなかったじゃない。

まいこ

そーお？

みずえ

しんじはよく手伝ってたけど。

しんじ

だってお小遣い増えるんだもん。

まいこ

ほら、見返りがあれば手伝うんだって。

みずえ

いただいたさくらんぼ、食べて。

光男

頂きます。

優作

頂きます。

光男、まいこ、優作、さくらんぼを食べる。

光男 おいしいなあ。  
みずえ どれ。(さくらんぼをやる)  
まいこ ほんとだ。  
優作 しんちゃん、食べる？(しんじに  
しんじ うん。  
優作 はい。(とってあげる)  
みずえ ほんと、おいしいわあ。

玄関のチャイムがなる。

まいこ 吉田さんかな。  
(声) 吉田 おじやますすよー。  
しんじ 吉田さんだ。

どかどかと吉田、入ってくる。  
手にはビニール袋。

吉田 いやいや、遅くなっちゃって、すみません。  
みずえ いえいえ。  
吉田 (優作をみつけて) お。優作。なにしてたんだ。  
優作 母さんに頼まれた袋、忘れてったでしょ。  
吉田 うん?…お。忘れたな。  
優作 俺、持ってきたから。  
吉田 おお! すまんすまん。何はいつてた?  
みずえ これ、さくらんぼ。今頂いてます。おいしいですよ。  
吉田 おー、おいしいですよ。これね。なんかいい品種らしいんですよ。  
まいこ そうなんだ。  
光男 そうだろうね。これはね。  
みずえ どうもお疲れ様でございました。ありがとうございます。(お辞儀)  
吉田 いやいや。こちらこそ、お疲れ様でございました。あ、これ、みずえさん。(ビニール袋を渡す)  
みずえ あら、いいのに。  
吉田 いや、なんも。アイス入ってるから、冷凍庫いれてくださいね。  
みずえ すいません。

みずえ、台所へ。

優作 買い物いったの。  
吉田 おお。(座る) どれ、もらっていいかい。(さくらんぼを食べる) うん!  
まいこ おいしいでしょ。  
吉田 おいしいね。ああ、先ほどはお疲れ様でございました。  
まいこ いえ、ありがとうございます。  
吉田 線香、あげてきていいか。  
まいこ あ、そっち。どうぞどうぞ。  
優作 線香あげたか。  
吉田 いや、  
優作 なにやっつてんのよ。  
しんじ 一緒にいくよ。  
しんじ あ、俺もまだだ。

吉田 しんじもか。お前、息子だべー。ちゃんとしないとだめなんだ、こついうことは。  
しんじ  
吉田 俺でなくて父ちゃんに謝れ、この。

ぞろぞろと線香をあげにでていく。  
まいこ、光男は無言でさくらんぼを食べる。

みずえ アイス食べる？(まいこと光男に)  
まいこ 食べる？(光男に)  
光男 うーん…食べる。  
まいこ 光男くん食べるって。(みずえに)  
みずえ まいこは？  
まいこ うーん、いらぬ。  
みずえ まいこ、歯痛いもんね。光男くん何の味？  
光男 なんでもいいですよ。  
みずえ したら、バナラにするかい。  
光男 すいません。

吉田、戻ってくる。

吉田 そういえばさ、  
まいこ ん？  
吉田 外にいる子、まいちゃんの友達かい？  
まいこ え？  
吉田 いや、外に女の子いたんだわ。まいちゃんの友達かい？  
まいこ さあ…  
吉田 あれ、違うのか。声かければよかったな。  
まいこ しんじの友達かな？  
吉田 しんじのか？彼女か？  
まいこ 彼女？えー！いるの？  
吉田 いや、知らないけど。

みずえ、アイスを置きながら、

みずえ 誰だって？  
吉田 いや、しんじの彼女。  
みずえ 彼女、いるの？(まいこに)  
まいこ 知らないよ。  
みずえ 違うの？  
まいこ わかんない。  
光男 どんな子ですか？  
吉田 若い女の子。アイス溶けたらいけないと思って急いだからさ、声かけなかったんだわ。あんまり見ない感じの子だなーと思って見てたらさ、こつ、背中向けたからさ。  
光男 いや、外さ。うちの前。  
吉田 誰だろう？  
光男 まだいるんじゃないか？  
吉田 みてくれれば？

しんじ、優作が戻ってくる。  
優作、泣きべそをかいている。

吉田　　なんだ、お前。泣いてんのか。  
優作　　いや…  
吉田　　しんじ、お前。彼女いるのか？

しんじ、優作、ぎよつとする。

しんじ　　え？  
吉田　　彼女、いるのかって聞いてんだ。  
しんじ　　…え？  
優作　　…。  
吉田　　どつちだ。  
しんじ　　…いないよ。  
優作　　…  
吉田　　いないのか。  
しんじ　　…うん。  
優作　　…  
みずえ　　なんだ…  
しんじ　　え？  
光男　　じゃあ、誰でしょうね。  
吉田　　誰だろうね。  
しんじ　　え？  
外に女の子がいるんだって。  
みずえ　　その子がしんじの彼女なんじゃないかって言ったの。  
しんじ　　…あ、そうなんだ。いや、彼女はいいよ。  
優作　　…  
みいこ　　しんじ、知ってる？  
しんじ　　何を。  
みいこ　　その女の子。  
しんじ　　いや、知らない。と思う。  
光男　　誰だろう？  
みいこ　　気になるね。  
吉田　　外、暑いのかなあ。ちよつと、見てくるわ。

吉田、そそくさと玄関へ。

しんじ　　姉ちゃんの友達じゃないの？  
みいこ　　えー。  
みずえ　　まいこの友達ならピンポン押すんじゃないの？  
みいこ　　そっだよねえ。

一瞬の間

みいこ　　みてる。  
みいこ　　まいこ、そそくさと玄関へ。  
しんじも付随して行く。





しんじ 俺だって知らないよ。  
みずえ 知らないひとなの？  
しんじ うん。

吉田、さおりの背中を押しながらやってくる。

吉田 お客さん。

一堂、さおりを見る。  
若い女の子。  
格好は派手ではない。  
すさまじく緊張している様子。

さおり お、お邪魔します…  
みずえ いらっしやいませ。  
さおり …

一堂、黙りこむ。

みずえ えーと、まいこのお友達？（まいこに）  
まいこ （首を横に振る）  
みずえ お友達？（しんじに）  
しんじ （首を横に振る）  
みずえ えーと…  
吉田 立ってたんだけ、そこに。社長の知り合いだっていうから。  
みずえ お父さんの？  
吉田 な！（さおりに）  
さおり あ、えつと…はい。  
みずえ …主人が生前、御世話になりました。（頭をさげる）  
さおり あ…いえ、…。このたびは…（頭をさげる）

沈黙。

さおり あの、わたし、やつぱり…  
吉田 なに？帰るのかい？  
さおり …はい。  
吉田 せっかく来てくれたんだから。手ぐらい合わせていってくれ。なうそのつもりで来てくれたんだべうな？  
さおり …はい。  
みずえ そうね。ぜひ。しんじ、ほらお通しして。  
しんじ あ、うん。（さおりに）どうぞ。  
さおり すみません。

しんじ、さおりを連れて奥の部屋へ。  
皆、ばらばらと坐り出す。

吉田 俺はてっきりまいちゃんの友達かと思ったんだけどねえ。  
まいこ 違うよ。  
みずえ で、でどちがどちがまなの？



光男 うん、よく見えなかったよ。俺。  
まいこ ちやんと見てみて。すごいから。綺麗な歯並び。  
光男 あ、アイス溶けてる。(急いでアイスを食べ出す)  
みずえ あードロドロになっちゃった。アイス。  
光男 大丈夫です。  
まいこ それはそれでおいしいでしょ。  
みずえ わたし、あの子に会ったことあるのかしら。  
まいこ え？  
みずえ ほら、誰かの娘さんとか。  
まいこ ああ。  
光男 大きくなっちゃってわかんないってやつですか。(アイスを食べながら)  
みずえ そうそう。  
光男 だめだ、まいこ。おいしくないわ。

しんじ、さおり、やってくる。

さおり あの、ありがとうございます。  
みずえ いえ、こちらこそ。わざわざありがとうございます。あの、ほら、すわって？  
さおり え？  
みずえ せっかく来ていただいたんだから、お茶でも。ね？すわって？  
吉田 ほれ、お嬢さん。

吉田、手まねきする。

さおり …じゃ、ちよつとだけ。  
みずえ 麦茶と、ジュースもあるけど、何がいいかしら。  
さおり いえ、お気づかいなく。  
みずえ いいの、何がいいかしら。  
さおり じゃ、麦茶を。  
みずえ 麦茶ね。ちよつと待ってね。(麦茶をいれに行く)  
吉田 ほれ、ここすわんなさい。(さおりに)  
さおり すいません。失礼します。(座る)

沈黙

優作 あの、  
吉田 なした？  
優作 僕、帰ります。  
まいこ え。いや、まだいれば？…ねえ？(光男に)  
光男 ん？あー…そうだね。せっかくだしね。  
まいこ ねえ。  
吉田 なんも、いれればいいべや。  
優作 自分ちじゃないでしょう。  
まいこ いいんだよ、優作。自分ちみたいなもんでしよう。  
優作 そう、ですか？  
まいこ そうだよ。いれば、いいよ。  
優作 そう？(しんじに)  
しんじ うん。いなよ。  
優作 …じゃあ、いようかな。



さおり  
みずえ  
まいこ  
みずえ  
さおり  
みずえ  
さおり  
みずえ  
しんじ  
吉田  
さおり  
まいこ

はい。  
（まいこに）戸田さん。  
聞いてたよ。  
うん。  
あの、ご存じないと思います。たぶん。  
そう？  
はい。  
なんだかお世話になったみたいなのに、すみません。何も知らなくて。  
いえ、いいんです。こちらこそいきなりお邪魔してしまつて。  
それは吉田さんが無理やりやったことだから。  
無理やりじゃないよ。なあ？（さおり）  
あ。ははは。（愛想笑い）  
ほらっ。

まいこ、さおりに向つて指をさす。  
一堂びっくり。

しんじ  
まいこ  
みずえ  
まいこ  
しんじ  
まいこ  
さおり  
しんじ  
光男  
まいこ  
さおり  
まいこ  
さおり  
吉田  
優作  
吉田  
光男  
まいこ  
さおり  
まいこ  
しんじ  
まいこ  
光男  
吉田  
光男  
まいこ  
さおり  
みずえ

何？ねえちゃん。  
あ。ごめんなさい。  
失礼でしょ。何？  
いや、あの…歯並び、きれいですね。  
はあ？  
すごくきれいな歯並びなの、戸田さん。（しんじに）  
わたしですか？  
気付かなかつたけど…  
ほら、つて俺に教えてくれたの？  
そうだよ、思わず声に出ちゃつたの。すみません。  
いえ。  
すごくきれいな歯並びをしてらつしやるなあと思つて。  
いえ、そんなこと…  
どれ。（覗き込む）  
父さん！ちよつと！  
なんでよ、見たいべや。  
確かに、気になりますよねえ。  
ちよつと、イーつてしてみてもらえます？イーつて。  
イー？  
イーつて。すみません。ちよつとでいいんで。  
イー…  
ほんとだ！  
ね！  
ああ、きれいだねえ。  
でしょ！  
うん、いい歯並びだ。  
よく磨いてあるし。  
きれいでしょ！いいよねえ！  
ありがとうございます…  
いえ、こちらこそ。いいものを見せてもらつて。  
とんでもないです。  
すみません…



しんじ　やめなよー。  
みずえ　なしてさ、いいでしょ。  
吉田　あらーずいぶん懐かしいもの出てきたね。  
みずえ　でしょう。吉田さんだいぶ若いわよ。  
吉田　そりゃそうだよ。俺だって若いころあったよ。優作見るか？俺の若いころ。  
優作　どれ？  
吉田　どれだ？  
しんじ　吉田さんもうちよつとうしろの方にいたよ。  
吉田　どれ。(アルバムをめくりながら)  
しんじ　さつき姉ちゃんと見てたんだよね。  
吉田　カツコよかったべ？  
しんじ　うん、まあ。  
吉田　お、男前がいるな。  
優作　どれさ？  
吉田　わかるべや。  
優作　わかんないよ。  
みずえ　これよ。(指をさす)  
優作　ふさふさじゃん！  
吉田　な、男前だべ。カツコいいべ。  
優作　それはなんとも言えないけど。  
みずえ　ほら、これ、まいこ。(写真をさす)  
まいこ　やめてよー。  
みずえ　ほら戸田さん、これ見て。  
さおり　はい。  
みずえ　これ2つか3つの頃なんだけど、もう虫歯だらけ。  
さおり　あら。  
吉田　そのころ確かにもう大変だったな。まいちゃん。

さおり、一枚の写真に目をとめる。

さおり　これ…  
みずえ　ああ、お父さん。  
さおり　若い、ですね。  
みずえ　そうねえ。  
さおり　まいこさんも、小さい。  
みずえ　ガチャ歯なのに、こんなに歯だして笑って。  
まいこ　しょうがないしょ。  
さおり　いいですね。うらやましい。  
みずえ　そう？  
さおり　はい。

皆　写真を見ている。

優作　社長…(泣きべそをかく)  
しんじ　ゆうちゃん…  
優作　しんちゃん…社長…うっ(小さい声をあげて泣く)  
吉田　泣くな。  
優作　だって。  
吉田　泣くな。

優作

…ちよつと、線香あげてくる。

と、優作立ち上がり、仏壇のある部屋へ去る。  
しんじ、あとをついていく。

吉田

すいません。

みづえ

いえ。喜んでますよお父さんも。優作があんなに思ってくれて。

吉田

いや、お恥ずかしい。

まいこ  
みづえ

優作、かわいがつてもらってたしね。  
そうねえ。

沈黙

みづえ

(さおりに) 今日ね、納骨だったんですよ。初七日。

さおり

…すみません、そんなときに。

みづえ  
まいこ

いえいえ、いいんです。…なんだかねえ、まだ不思議な感じがしてねえ。  
うん。

さおり

闘病長かったしね、心の準備はできてただけで、いざそうなってみるとねえ。こう、不思議な感じなのよね。病院行かなくなったことだけよ、変わったことといえは、  
そうなんですか。

みづえ

言いすぎかもしれないけど、ほんとにそんな感じなのよねえ。じわじわくるのかもしいけれど。

吉田

あんまり、無理なさらさないでくださいよ。

みづえ  
吉田

無理だなんてそんな。明日からはまいこもいてくれるっていうし、大丈夫ですよ。  
ならいいんですが。

光男

(まいこに) そうなの？

まいこ

あ、うん。

光男

ふうん。

みづえ

吉田さんこそ、工場のこと…ほんとにすみません。

吉田

私はいいんですよ。私は、社長の遺言どおりに工場やってくだけですから。

みづえ

その遺言だって、まだわからないだし。

吉田

いえ、ちゃんと書いてくれます。社長のことですから。閉めるとあつても、続けるとあつても、私はそのとおりにしますから。

みづえ

ありがとうございます。

さおり

…まいこさんは、どうなんですか？

まいこ

…どう、っていうのは。

さおり

お父さん亡くなられて。

まいこ

…

さおり

すいません。

まいこ

いえ。

さおり

…

まいこ

父が亡くなったわけですから。悲しいです。

さおり

そうですよ。すいません。…私も、そうなるといいな。

まいこ

どういう意味ですか？

さおり

ごめんさい。変な意味じゃないです。…あんまり実感がわかないんです。不謹慎ですけど、誰かが亡くなってしまふことが。もちろん、お…(言い直して) おじさんが亡くなって悲しいと思

うんですけど。

…

まいこ

まいこさんは、おじさんが亡くなる前は一緒に暮らしてらしたんですか？

さおり

いや…もう別々に。

まいこ

…



吉田 まいこはもう家出て長いから。しよちゅう帰ってきてるけどな。  
まいこ そうだね。  
さおり しんじさんは…  
吉田 ここに住んでるよ。  
さおり そうなんだ。  
吉田 ま、社長も病院生活長かったからな。  
みずえ そうね。  
さおり そうなんだ…  
吉田 最後に会ったのはいつ？（さおりに）  
さおり ……いつだったか。お見舞いに行っただけですけど。  
吉田 そう。  
さおり その時は、お元気そうでした。  
まいこ 最後まで、元気でしたよ。  
さおり そうなんですか？  
まいこ ええ。歯、よく磨けて言いながら、死にました。  
…？  
さおり 最後まで、わたしの歯並びが悪いの気になりました。自分のせいだって父は思ってたみたいで。  
まいこ 餛、食べさせすぎたから。  
みずえ 娘さん思い、なんですわね。  
さおり そうだったのかもしれないね。  
光男 御両親は？  
さおり 母は、昨年亡くなりました。  
光男 そうですか。  
みずえ お父様は？  
さおり 父は…元気で。  
みずえ お父さん、大事になさってね。  
さおり ……ありがとうございます。  
まいこ、 餛を食べる。

まいこ （小さい声で）青りんご。  
光男 また餛。  
まいこ （さおりに）餛、食べますか？  
さおり ……いえ。  
まいこ よかったら、どうぞ。  
さおり ありがとうございます。  
光男 こんな歯になるって思ったら食べませんよねえ。  
さおり いえ、（愛相笑い）  
まいこ （少しむっとして）そうですねー。  
光男 まいこだって褒めてたじゃん。戸田さんの歯並び。餛食べなきゃこうなれるんだよ。  
吉田 （むっとして）そうですねー。  
みずえさん、あいつ、まだ来ないのかい。  
みずえ なんも連絡ないんだわ。いつくるのかしら。  
まいこ しんじー！（奥の部屋に向かって呼ぶ）

と、しんじ、すぐ顔をだす。

しんじ なに？  
まいこ 大輔から連絡きてないの？

しんじ なんもきてないよ。  
まいこ 電話してみて。  
しんじ うん。

しんじ、携帯をとりだし電話をかける  
さおり、そわそわしだす。

みずえ 光男くん、スーツ脱ぐかい？しんじの服かりる？

光男 いえいえ、大丈夫です。

しんじ 出ない。っていうか、運転中だわ。(携帯をしまう)

まいこ 向ってるのかな。

みずえ なんで運転中ってわかるの。

しんじ ドライブモードになってる。運転中です、っていうんだよ。

みずえ 電話が？

しんじ 電話が。

みずえ そんなふうになってるの、今。

しんじ うん。結構前から。

さおり あの、わたしそろそろ、

光男 (さおりに) 騒がしいでしょ、ごめんね。

さおり いえ。

光男 今日さ、遺言書あけるんだ。お父さんの。

さおり 遺言書…

光男 そう、遺言。今日、開封しなさいっていう指定つきなんだ。なんでだかわかんないんだけど。

吉田 いやそれが、社長もややこやしいことしてくれたもんだからさ。

しんじ ややこやしいね。

吉田 ややこやしいよなあ。

さおり …？

光男 亡くなってすぐ開けなさいって言われてた遺言書があるんだけど、いざ開けてみたら重要なこと

は何も書いてないの。で、その最後に…

吉田 (遮って) 最後に、納骨の日に大輔が持つてるもうひとつの遺言をあけるように、つてき、書いて

てたんだわ。そっちに大事なことかいてあると思うんだけどさ。

さおり …そうなんですか。

光男 大輔くんって、これから来るんだけど。司法書士なんだけど。知ってる？大輔くん。

しんじ いえ！全然！

さおり 知ってるわけじゃないじゃん。

光男 そっだよね。

さおり わたし、お邪魔になるといけないのでこれで…(立ちあがる)

吉田 なんも、ゆっくりしてればいいべさ。

さおり いえ、そんな、遺言書だなんて、そんなところにいれませんか。

吉田 そうかい？

さおり はい！

みずえ なんだかすいませんね。(立ちあがる)

さおり いえ、とんでもないです。こちらこそ急にすみませんでした。

みずえ あ、ちよつと待って。ね、お弁当、持って帰って。(紙袋から弁当を取り出す)

さおり いえ、そんな、大丈夫です。

みずえ いいからいいから。ちよつと待って。まいこ、袋さがして。

まいこ はいはい。(紙袋を探す)

みずえ しんじ、仏壇からお菓子持っておいで。

しんじ はいはい。(去る)



大輔 (さおりを見て) あれ？  
さおり ……  
吉田 大輔、遅いべや！  
大輔 ゴメン。ちよっといろいろあつて…

さおり、うつむく。  
大輔、さおりを見る。一瞬考える。

大輔 ……あれ。…えーつと。  
さおり ……  
吉田 ああ。さおりちゃん。  
さおり ……こんにちは。

大輔 まわりを見渡して、また考える。

まいこ 大輔？  
大輔 (さおりに) ……帰るの？  
さおり あ…はい。  
大輔 ……。なんでさ！いればいいしょ！  
さおり え？  
大輔 どうせならいたほうがいいしょ。ねえ？  
さおり いえ、  
大輔 イヤー、俺いまひとりでテンパっちゃった！なんだーそういうことかあ。  
さおり 違うんです…  
大輔 何が違うの！ほらほら、戻って戻って！座って座って！  
さおり あの、ちよっと…  
大輔 ほら、座って座って！  
まいこ 大輔、ちよっと、なに？  
大輔 何いってんの、まいこ。もう知ってたべ？ならいいべや。

大輔 全員を押し戻し座らせ、自分も座る。

大輔 遅くなつてごめんねー。いや、俺びっくりしちやった。でもまあ、そういうことなら話は早いかなと思ってるんだけどね。いや、俺だつてまた中身みてないよ？遺言。(自分のカバンを叩く)  
しんじ 大ちゃん、ちよっと。  
大輔 おお、しんじ。なによ。いやあ、あつちい！余計に汗かいた。あ、えーつと、光男さんですよね？  
光男 どうも。  
大輔 先日はごあいさつ程度で失礼しました。  
光男 いえ。  
大輔 おばさん、まいこ、しんじ、光男さん、吉田さん…おー優作。  
優作 こんにちは。  
大輔 目、どうしたの。  
優作 ちよっと。  
大輔 ふーん。で、さおりちゃん。このあいだはどうもね。  
しんじ このあいだ？  
大輔 完璧だな。じゃ、あけますか！  
さおり あの！  
大輔 ん？  
さおり わたし、失礼します。(立ちあがるうとする)



大輔 …いや。  
みづえ 大輔、言いなさい。  
大輔 …この子。…この子、おじさんの娘です。  
さおり …

沈黙

大輔 なんちやって…

沈黙

大輔 すいません…

大輔 大きなため息。  
一堂、啞然としている。

さおり …本当です。私、娘です。

沈黙

しんじ …ほんとに？  
さおり (うなずく)  
吉田 みづえさん…  
まいこ どういうこと？  
大輔 すいません！  
戸田さん、ちよつと、どういうこと？大輔も！なんであんたがそんなこと知ってんの！  
まいこ いや、まいこ、あのね。  
なんなの…  
光男 まいこ、怒っても仕方ないよ。  
光男 なんでそんなにのんきにしたられんのよ！  
まいこ すいません…  
さおり …  
さおり すいません、本当なんです。  
まいこ 本当なんです、って。  
さおり …すいません。

沈黙

大輔 あの…今年の頭に、入院してるおじさんに呼ばれたんです。遺言書きたいからって。で、病院に行ったら彼女がいて、娘なんだって言うんです。俺だって、信じられなかったし、何言ってるんだって思っただけ。俺が生きてるうちは絶対言うなって口止めされてたし、おじさん、俺が死んでからこの子のこと家族に言えとか言うし。納骨の日にうちに連れて行って。そんなの俺には無理だっ

さおり 俺だって、そんなすぐ言うつもりなかったし、俺が言っただけのいいものかどうかわかんなかったし。  
大輔 …わたしが来なければよかったです。ごめんなさい。  
さおり 俺が彼女にとりあえず来てくれって頼んだんです。無理やり呼んだんです。でも俺、時間に遅れたから待ち合わせ場所にいなくて。だから、彼女がもうここにいたから、みんなとづくに知ってるもんだと思っただけ…すいません。

さおり  
吉田  
さおり  
吉田  
さおり  
しんじ  
吉田  
しんじ  
優作  
しんじ  
さおり  
まいこ  
さおり

：わたしが来なければよかったです。ごめんなさい。  
俺が無理やり連れこんじやったからな。  
いえ。

なんか、悪かったな。

いえ。

吉田さん悪くないでしょ。

？

吉田さん、悪くないよ。大ちゃんも。父さんが悪いんだよ。なんだよ、それ。

しんじ。

そうでしょう。父さんだよ、悪いのは。

しんちゃん…

なんなんだよ…

すいません…

謝らなくていいよ。

：

まいこ、飴を食べる。

ひとつたべたあと、すぐまたひとつ食べる。

すぐに、ゴリゴリ飴を噛む。

飴を噛む音が響く。

あの、

：

ごめんなさいね。びっくりしちゃって。

みずえさん、

大丈夫です。あのね、ひとついいかしら。

：

お母さんて、さっき亡くなられたって言ってたけど…

母は昨年亡くなりました。それは本当です。

どんな方？

…やさしい人でした。

そう。

：

そんなこと聞いてどうするの。

気になるでしょ、やつぱり。お父さんに限ってそれはないと思ってただけだねえ。わかんない

ものねえ。もうお父さんいないしねえ。なんにも言えないんだよ。

みずえさん、

大丈夫です、吉田さん。ちよっとね、びっくりしてるだけ。しんじ、麦茶ちょうだい。

：

僕、やるよ。冷蔵庫？

うん。

優作、冷蔵庫へ行き麦茶の入った瓶を持ってきて、コップに注ぐ。

みずえ

ありがとう、優作。

優作

いえ。

みずえ、麦茶を飲む。

みずえ

つめたい。

まいこ、また飴を食べる。今度は噛まない。

光男　あの、ちょっといいですか。  
大輔　？

光男　遺言書には、彼女のことも書いてあるんだろうか？  
大輔　それは…僕も中身は見えないし知らないです。

光男　そうなんだ。でもさ、だったら尚更この場にはいてもらったほうがいいんじゃない？  
大輔　え…

光男　だってそうでしょう。いてもらったほうがいいよ。

大輔　今日、あけるんですか？遺言。

光男　あけたほうがいいよ。逆にいい機会だよ。

しんじ　光男さん、ちよつと。

光男　ん？

しんじ　あけてもいいけど、この子はいなくていいんじゃないの？俺やだよ。

光男　そうだよね。

しんじ　そうだよ。

光男　でもさ、この子もきょうだいなんだよ。すごく重要なことだよ。

しんじ　そうだけど…

光男　まいこ、俺はそうしたほうがいいと思うよ。

まいこ　…(うなづく)

光男　さおりちゃん、お父さんからそういう、遺産の話はされたの？

さおり　…少し。でも、断りました。お父さん、わたしに気使ってそういうこと言ってるんだと思ったし。

みずえ　お父さん？

さおり　あ…

みずえ　お父さんとか呼ばないでちょうだい！

みずえ、さおりにつかみかかる。

しんじ　母さん！(みずえを止めようとする)

みずえ　お父さんとか呼ばないでちょうだい！

まいこ　お母さん、

さおり　ごめんなさい！

吉田　(みずえを止める)みずえさん！みずえさん！落ち着いて！

みずえ　お父さん…！！(泣き崩れてしまう)

吉田　…

しんじ　母さん、ちよつと休んだら。

吉田　しんじ、あっちの部屋いいか。

しんじ　うん。

吉田　みずえさん、立てる？優作、麦茶持ってこい。

吉田、しんじ、みずえを立ちあがらせて支えながら去る。

優作、そのうしろをコップとアイスノンをもってついていく。

まいこ、深いため息。

さおり

ごめんなさい…

まいこ　いいよ、謝らなくて。謝っても仕方ない。



さおり …  
まいこ うちのお父さん、…戸田さんのお父さんなんですよ。  
さおり …  
まいこ それが事実なんですよ。  
さおり …  
まいこ だったら、仕方ないじゃない。  
さおり …

まいこ、飴を食べる。ゴリゴリと噛む。  
飴を噛みながら、光男を見る。

光男 え。なに？  
まいこ 別に…

しんじ、優作、戻ってくる。

しんじ 吉田さんが見ててくれるって。  
まいこ うん。

しんじ、優作、座る。  
まいこ、飴をまた食べる。

まいこ みずたま。  
さおり …？

しんじ、飴たべな。  
…うん。

しんじも飴を食べる。

大輔 今日はさ…もう帰ったほうがいいかな。  
まいこ わたしに聞いている？  
大輔 まいこにっというか、うん、そうだね…  
…どうだろう。  
まいこ 帰ったら？母さん、混乱してるし。  
大輔 すまん。  
まいこ …いいよ。  
光男 でもさ、開けるだけ開けたらいいと思うんだよ。  
しんじ それもわかるんだけどさ…  
光男 工場のことだってあるんだし。  
しんじ そうだけど…  
光男 だろう？吉田さんだって早く決めてもらいたいはずだよ。ねえ、優作くん。  
優作 え？あ、そうだと思います…  
光男 だったら、一日でも早く遺言を確認して、実行すべきだよ。  
まいこ …光男くんさ、  
光男 ん？  
まいこ なんですかそんなに開けたいの？遺言。  
光男 まいこは開けたくないっというの？  
光男 そうじゃないよ。でも今日無理して開けなくてもいいかなとは思ってるよ。  
光男 ダメだよ。今日だよ。

まいこ

なんで？

光男

だから、それはさ、みんなのためにもなるだろ。だいたい、今日あけるってことも一応遺言じゃないか。守るべきだよ。さおりちゃんだって、来るべくして来てるんだろ？

：

さおり

まあ、そうですね…

光男

ほら、偶然じゃないんだよ。ここにいる全員がさ、お父さんの遺言に立ち会わなきゃいけないというんだよ。

優作

いや、僕は…

光男

偶然も必然のうちだよ。

優作

はあ。

大輔

光男さんの言うこともわかりますよ。わかるんですけどね…

まいこ

こんなことになって、今はそれどころじゃないと思うの。なんで今日開けなきゃだめなの。

光男

（ため息）だって、俺が見たいんだよ。遺言。

まいこ

え？

光男

そうだろう。自分の嫁のお父さんの遺言だよ？気にしない奴がどこにいる。

まいこ

そうだけだ。

光男

まだ嫁じゃないけど、嫁になるんだよ？てことは、もし、もしも、俺が飴工場の後継ぎに、なんて書かれてたら大変じゃないか。

まいこ

それは、ないと思うよ…？

光男

もしもってことがあるじゃないか。

まいこ

…まあ。

光男

光男さん、それはたぶんないよ？

しんじ

しんじくんだって、後継ぐ気ないんだろ？

光男

…俺は、まあ。

しんじ

だったらわかんないよ。お父さんが考えてたことは、誰も知らないんだし。

大輔

まあ…

光男

光男さん、僕もね、たぶんそれはないんじゃないかなーと、思いますよ？

大輔

そう？

光男

はい。

大輔

：

光男

だから、そんなね、無理に開けることもないと思うんですよね。

しんじ

そしたら、ほら、この子だって帰れるんだし。

さおり

：

光男

いや、だめだ。

光男

光男くん。

まいこ

だめだよ、気になって仕方ない。あけましょう。今日。

光男

光男くん。

まいこ

だめだよ、気になって仕方ない。あけましょう。今日。

光男

光男くん。

吉田、戻ってくる。

優作

あ。

しんじ

母さんは？

吉田

ちよっと落ち着いた。一人にしてくれって。（座る）

しんじ

そう。

吉田

優作、麦茶くれ。

優作

あ、うん。

まいこ

コップ、台所。

優作、台所へコップを取りに行き、麦茶をいれる。

まいこ　　なんか、すみません。

吉田　　何言ってるのよ。なんもしてないべ。

しんじ　　悪いのは父さんでしょう。姉ちゃんが謝らなくていいよ。

吉田　　誰が悪いっつちゆう話でもない。な、しんじ。

しんじ　　：

吉田　　(麦茶を飲む) はー。

さおり　　あの、わたし：

吉田　　ん？

さおり　　やっぱり帰ります。

光男　　いや、いましようよ。

さおり　　でも。

吉田　　うん、いたほうがいいな。

しんじ　　吉田さん。

さおり　　：

吉田　　厭かもしれないけど、もつちよつといてもらつていいかな。

さおり　　はい…。

吉田　　いいよな。(まいこ、しんじに)

まいこ　　：

しんじ　　：

沈黙

吉田　　さおりちゃんさ、

さおり　　はい。

吉田　　昔、会ったことあるな、俺。一回だけ。

しんじ　　え？

吉田　　：

さおり　　覚えてないか。

しんじ　　吉田さん、知ってたの？

吉田　　いや、知らんよ。そんなことだとは知らんかった。

吉田　　：

吉田、  
麦茶を飲む。

吉田　　あれは、いつだ？10年ぐらい前かなあ。社長がさ、送ってくれっていうからさ、車で送ってっ

たんだわ。三越のライオンの前だったな。車とめたらさ、女の子が駆け寄ってきてさ、こんにち

はって言ったんだよなあ。あれ、たぶんさおりちゃんだな。

吉田　　：

さおり　　社長がさ、知り合いの子なんだわっていうからなんも不思議に思わなかったんだわ。覚えてない

吉田　　か。

さおり　　…思い出しました。

吉田　　いやー、大きくなった。

さおり　　：

吉田　　そうか、そういうことだったんだなあ。

さおり　　：

吉田　　お母さん、どんな人。

さおり　　え…

吉田　　別にさ、下世話な気持で聞いているんじゃないんだよ。社長の…とき、昔っから知ってるけどさ、

まあ、適当な人なんだわ。いや、いい人だよ？家族思いだしさ。な、まいちゃん。

まいこ

吉田

…みんな、君のことを知らなかったんだよ、今まで。そんな気配も感じさせなかったんだよ。信じられないだろう？俺なら無理だよ。だからさあ、言いにくいことなんだけど、外に子供つくったりするような人じゃないんだ、俺からすれば。いや、ごめんな。

さおり

吉田

あなたのお母さんを悪く言うつもりもない。あなたのお母さんも、社長ももういねえんだからな。でもさ、俺はさ、社長と家族みたいなもんなんだよなあ。だからさ、気になるんだわ。どうしたって気になるんだわ。だからさ、そんぐらい聞いてもいいだろう？

しんじ

吉田

そっだよな。聞きたくないよな。

まいこ

わたし、聞きたい。

しんじ

姉ちゃん、

まいこ

聞きたくなかったら席はずして。

しんじ

…

まいこ、鮎を食べる。ゴリつとひと噛みする。

さおり、ぽつぽつと話し出す。

さおり

…お父さんとは幼馴染だって、母は言っていました。すごく古い付き合いだって。小学校の同級生だったみたいで。母が死んだあと、遺品を整理して一枚だけ写真がでてきたんです。母と、お父さんの若いときの写真で、写真は一枚だけでした。何があったのかは教えてもらってません。ただ、母は、お父さんのこと大好きだって言っていて、悪く言うようなことは一度もなかったです。お父さんはすごくお仕事が忙しい人だからって言われてたし、小さいときはおうちにお父さんがいないのは当たり前だって思ってたし。母は看護婦をしたのでわたし、おばあちゃんとお父さんと一緒に住んで。だから、お父さんと会うのはいつも外です。誕生日とクリスマスは、学校から帰ると家の外でお父さんが待っていてプレゼントくれるんです。夏休みとかは、デパートとか、動物園とかつれてつてもらえるんです。でも、母と父人ていうのは一度もなかったです。…高校出てすぐに、そういう、ウチの話を母から聞いて。あ、やっぱりなあって妙に納得しちゃって。でも、それってどうなのとも思ってた。わたしが二十歳になったとき、父人でご飯を食べに行っても、そのときの母はすごく楽しそう。それまでもきつとわたし抜きでお父さんと会ってはいたんだと思うんですけど、3人ていうのはほんとに初めて。なんか、家族ってよくわからないんですけど、そのときは家族っぽいってより、友達同士でごはん食べてるようなかんじ。そのあと母が入院しちゃって。働きすぎたんですね。変なとこ負けず嫌いな人で、後から聞いたんですけど生活費とか養育費とかほとんどもらってなかったみたいで。今思えば、お父さんがライバルだったんじゃないかなあって。思うんです。

吉田

さおり

ライバル？

変な言い方ですけど。…母が譲らなかったみたいなんです。わたしを産むこと。迷惑かけないようにつけて思ったのかもしれないし、最初っからそうだから一人でがんばるつもりだったんだろうし。がんばりすぎて、死んじゃって。それで初めて、わたしからお父さんに連絡したんです。そしたら、お父さんも入院してて。

吉田

さおり

そうか。

母は、お父さんのことも、その、家族のことも悪く言ったこと一度もありません。母のわがまま

吉田

光男

うん、いいよ、もう。わかった。

さおり

はい。

光男

お父さん、君のこと認知してるの？

さおり

…

さおり、大輔を見る

大輔

正式にはしてないです。

光男

あ、そうなんだ。正式？

大輔

認知してるようなものなんですけど、書類的にはなってるんですよ。たぶん彼女のお母さんがそういう手続きしてないようで。

光男

へえ、そう。

大輔

だから…してもいいって、おじさん言っていましたけども…

しんじ

え？

光男

認知？

大輔

今からでもできるんで。

光男

するの？

大輔

いや、俺が決めることじゃないですよ。

光男

するの？

光男 さおりとまいこを交互に見る。

まいこ

そんなの、いきなり言われても。

光男

そうだよ。

さおり

わたし一人でどうにかなるものでもないの…

光男

そうだよ。

大輔

まあ、あとは遺言書次第ってことで。

光男

そういうこと、書いてるかもしれないってことだよ。

大輔

まあ、そういうことです。

光男

じゃあ、あけましょう。さっそく。じゃないとわからないんだから。

まいこ

今？

光男

うん。

大輔

いや、おばさんいないしダメですよ。

光男

…そうだね。

しんじ

僕はいやだよ。

光男

しんじくん？

しんじ

書いてても書いてなくても、いやだ。…いくつ？(さおりに)

さおり

え？

しんじ

年。いくつ？

さおり

22です。

しんじ

(ため息) なおさらいやだ。

大輔

なんで。

しんじ

だって僕より年下でしょ。僕が生まれてからでしょ。なんだそれ。ちょっと気持ち悪いし。

優作

しんちゃん、

光男

そう言わないであげなよ。大変だったよ彼女、きつと。

まいこ

光男くん？

光男

そうだから？母子家庭って、大変だよ。お母さん頑張って育てたんだよ。お父さんいなくてさ、苦

しんじ

労もいっぱいあったよ？ねえ。彼女ががんばったよ。

光男

なに、光男さんはそっちの味方なわけ？

大輔

味方とかさ、そうじゃないよ。ただ俺はさ、頑張った人をさ認めてあげてもいいんじゃないのっ

光男

ていうさ。認知とかはまた別だよ。ねえ、大輔くん。

大輔

相続とか絡みますしね。

光男

そう、それ。それとはまた別。

大輔 光男さん相続権ないですけどね。  
光男 そうだけじゃ。でもほら、お父さんの遺品のひとつくらいあげたくなるじゃない。

まいこ、光男をにらむ

光男 それくらいはいいんじゃないかってさ、人として、ね。人として。さおりちゃん。がんばったよ。うん。

さおり (うなづく)

光男 いっそのことさ、さおりちゃんが工場で働くとかさ、いいんじゃない？ね？吉田さん。

さおり え？

吉田 ……

まいこ ……

しんじ ……(まわりをきよるきよる見る)

優作 光男さん。

大輔 うん？

光男 それはちよつと、違ったみたいですよ。

大輔 あ、そう。そうか。

光男

沈黙

光男、テーブルの上にある瓶から麦茶を注ぐ。  
麦茶を飲む。

光男 でもさ、大変だったね、さおりちゃん。がんばったよ。うん。

さおり (愛想笑い)

まいこ 光男くん、麦茶、冷蔵庫いれてきて。

光男 ……

吉田、麦茶を飲む。

光男、台所へ行き麦茶を冷蔵庫へ入れる。

そのまま光男は食卓テーブルへ座る。

吉田 まいちゃん。

まいこ はい。

吉田 工場さ、たぶん閉めると思うんだ。

まいこ え？

吉田 社長とさ、そういう話でほぼ決まってたんだわ。

まいこ ……

たださ、社長、納骨までは工場やってほしいって言ってたろ？だから二三日、やってたけどさ。でもたぶん、閉めるな。

聞いてないよ？

うん、そうだろうな。

…

(大輔に) でも、そういう話、聞いている？

…まあ。

そうなの？

そういううときのために、ってことだよ？一応、話は進めてあるけどさ…

まいこ そんなの、聞いてないよ。



しんじ  
まいこ  
しんじ  
まいこ  
しんじ  
吉田  
まいこ  
吉田  
しんじ  
吉田  
しんじ  
まいこ  
しんじ  
吉田  
しんじ  
まいこ  
光男  
まいこ  
光男  
大輔  
しんじ  
大輔  
しんじ  
吉田  
しんじ  
吉田  
しんじ  
まいこ  
大輔  
優作  
さおり  
しんじ  
まいこ  
しんじ  
まいこ  
しんじ  
大輔

え？

結婚しな。

姉ちゃん…

あ、でも彼女いないんだ。

ちよっと。

それは見合いでいい。

ああ、そうか。

社長はさ、しんじも早く身を固めてほしいって願ってたぞ。最初の遺言にも書いてたべ？

まあ…

じゃあ、わかるべや。さ、嫁もらうか。

いや、無理。

なんで。

無理だよ。

無理じゃない！

姉ちゃん。

結婚して跡継げ。

いやだ。

見合いらななんとかするから。な？

興味ないよ。

しんじーお願いだからー。

いやだつて。

まいこ、あんまり無理強いしても。

だって、しんじが結婚すればすべて丸くおさまるんだよ？

まあそうだけども…

しんじ、跡継ぐのがいやなの？結婚するのがいやなの？

…結婚？

そっちか。

じゃあ、一人身でいいから後継いで。

それも嫌なんだつて。

できれば嫁がいたほうがいいよなあ！？

いなくていいよ。

美人と見合いできるぞ！

ほんとに興味ないんだつて。

あもう…

なに！

ごめんなさい、出すぎた真似なんですけど…

なに。

あの…しんじさん、ほんとはお付き合いしてる人、いるんじゃないんですか？

え？

！！

なんとなくなんですけど…さっきから、お見合いに興味ないって言うてるから…気のせいかもしれませんが、ごめんなさい。なんでもないです。

…

そうなの？

いや…

しんじ、彼女いるの？どうなの？付き合ってるひと、いるの？

…いるよ。

！！！！

いるの！？



さおり やつぱり！  
なんでもっと早く言わないの！  
それなら話は違うな！  
その子と結婚すればいいよね！  
そうですよね。  
しんじ、その子連れてこい！  
あの、  
どんな子？なんて子？なんて名前？  
…ゆう…ちゃん。  
ゆうちゃん！  
いい名前だな！  
ゆうちゃん、連れておいで。  
いや、無理だつて。結婚も無理。ほんと、無理。  
なんで。  
なんででも！  
紹介ぐらいしてくれたっていいじゃない。  
いや、無理。ほんと無理。  
しんじ！  
俺は、工場継がないし、見合もしないし、結婚もしない！

しんじ、自分の部屋へ去る。

大輔 怒っちゃった…  
吉田 なんも、彼女紹介してくれてもいいいべなあ。  
大輔 ねえ。  
光男 まいこ、やりすぎだよ。  
まいこ なんで。  
光男 しんじくん、厭がってたじゃない。

優作、ここぞととしんじの部屋へ去る。

まいこ でも、それしかないんだよ？  
光男 それはまいこの勝手だろ。別にしんじくんはいいんだよ。工場なくなっても…  
大輔 もう諦めろよ。吉田さんもああ言ってたろ？まいこ、空まわってるんだよ。  
光男 ちよつと、光男さん…  
大輔 そうでしょう。まいこが諦めれば全部うまくいくよ。

まいこ、飴を食べる。  
光男、それを見て、

光男 いいかげん飴食べるのもやめてくれないか。飴のせいでそんな歯並びなんだぞ。俺んとこに嫁に  
くるんだらう？歯医者嫁がそんな歯並びしててどうすんだよ。

…

吉田 光男くん、言いすぎじゃあないかな。

光男 いえ、事実ですから。

吉田 ああ、そう…

さおり でも

全責 さおりを見る。

さおり  
でも、まいこさんだって悪気があるわけじゃないんですよ？工場なくしたくないから、そう言ってるだけじゃないですか。歯並びのことだってそうですよ。飴好きだから、そうなっただけです。もうちよつと、まいこさんのこと考えてあげたらいいと思います！冷たいです！

光男

まいこ

さおり (はつとして) すいません…

光男 冷たい？

さおり すいません…

光男 そうか…(まいこに) 俺、冷たい？

まいこ

光男 俺、冷たい？(大輔に)

大輔 いや、そんなことは…

光男 正直に言つて。

大輔 熱いかんじはしないですよね…

光男 そうか…

沈黙

吉田 みずえさん、大丈夫かな…

と、逃げるように、みずえのいる部屋へ去る。

まいこ (深いため息)

さおり 大丈夫ですよ、まいこさん。

まいこ

さおり 大丈夫です。

まいこ …どうも。

大輔 まいこ、どうする？

まいこ どうしようねえ…

さおり 別の日には、できないんですか？

大輔 してもいいんだけど…でもさ、納骨の日にあけろつていうのもまた遺言なんだよね。

さおり …またみんなが集まったらダメですか？

大輔 別の日についてこと？

さおり はい。

大輔 俺はいいけど…

さおり まいこさん。

まいこ わたしも、そのほうが助かるけど…

光男 俺は、今日あけてもらいたいよ。心配で仕方ない。

さおり でも今日は、もう難しいんじゃないですか？

光男 うーん…

まいこ (むっとしている)

さおり 私ならまた来ますから。

まいこ …!!! (怒っている)

大輔 まいこ、別の日にしたら？

まいこ そうだね…

しんじ、優作戻ってくる。

大輔　しんじ。  
しんじ　俺は継がないぞ。  
大輔　わかったよ。  
しんじ　姉ちゃん、ちょっと。  
まいこ　なに？  
しんじ　ちょっと。

しんじ、まいこを台所の隅へ連れていく。優作も一緒にいる。  
こそこそ話のかんじで。

まいこ　えー!? (大きい声で)  
優作　シーっ!  
大輔　どした？  
しんじ　なんでもない。

大輔　怪しいなあ。  
さおり　怪しいですね。

しんじ　理解、してくれるよね？  
優作　お願いします。  
まいこ　ちよっと待って。混乱してるの。  
しんじ　姉ちゃん、頼むよ。  
優作　まいこさん。  
まいこ　…理解は、する。するようにする。

大輔　光男さん、元気なくなっちゃいましたね。  
光男　え？そんなことないよ。  
さおり　あ、ごめんなさい。私のせいですよね。  
光男　いや、気にしないで。

しんじ　母さんたちには黙っててよ。  
まいこ　そんなの言えるわけないじゃん。  
しんじ　ほんと、ごめん。  
まいこ　こんなときにそんな大事なこと言わないでよ。  
しんじ　だって。いきなりピンチがきちゃったんだもん。

光男　冷たいひと、って結構ショックなフレーズだよな。  
大輔　そうですか？  
光男　そうだよ。俺、始めていわれた。  
大輔　またまたあ。  
光男　ほんとだって。

まいこ、しんじ、優作戻ってくる。

光男　どした？(まいこに)  
まいこ　なんでもない。…すっかりしなくちや。  
光男　そっだよ、まいこがすっかりしなくちや。  
まいこ　は？

光男 諦めた？  
まいこ なにを。  
光男 工場。  
まいこ ……  
光男 もう諦めなよ。ねえ、しんじくん。そう思うよね。  
しんじ まあ…

まいこ、飴を食べる。

光男 また食べるのかよ。  
まいこ いいでしょ。  
光男 どんだけ食べばいいんだよ、飴。  
まいこ ……(むつとする)  
大輔 俺も、もらおうかな。飴。  
まいこ どうぞ。  
大輔 久々に食うなあ。あ、食べます？(さおりに)  
さおり いいんですか？  
大輔 どうぞ。  
さおり じゃ、いただきます。  
まいこ (むつとする)  
大輔 食べたことない？  
さおり 何度かあります。でも小さいときだから。  
大輔 そっかあ。

大輔 さおり、飴を食べる。

さおり おいしい。

沈黙

さおり お父さん、優しかったですよ。とても。  
まいこ ……？  
さおり あんまり思い出ないですけど。  
まいこ ……  
さおり いいなあ、まいこさんは。  
まいこ ……  
さおり あ。違います。別に、恨んでる、とかじゃないんです。ただ、いいなあって。  
まいこ ……なに？  
さおり わたし、ちよつとしか飴食べたことないんです。でも、すごい楽しそうに飴の話するお父さんは覚えてます。おいしいですよね、お父さんの飴。いちばんすきだなあ。今食べて、そう思いました。  
まいこ みずたまが一番好き。  
さおり みずたま。  
まいこ みずたま。知らない？あたし、お父さんの飴の中でみずたまがいちばんすき。  
さおり 名前、ついてるんですね。  
まいこ 次に好きなのは、いちごダンス。青りんごダンスもおいしかったけど。パイナップルダンスもおいしかった。ラムネシャワーは3番目かな。シャワーシリーズなら、ラムネといちごだな。  
さおり へえ。



と、まいこ立ち上がり、

まいこ (光男に) わたし、絶対矯正なんてしないからね！飴だって食べ続けるんだから。歯医者嫁がなにさ！だったら最初っから歯並びいい嫁にすればいいじゃない！

…うん。

まいこ (しんじに) なんでもかんでも好き勝手言いやがって。わたしだって混乱してるの！そんなとき

にそんな大事なと言わないで！

しんじ

ごめん…

まいこ

あんたも！優作！

ごめんなさい…

優作

まいこ

(新呼吸)

まいこ、飴を食べる。

すぐに、ごりごりと噛む。

まいこ

いちごダンス！

まいこ、ごりごりと飴を噛みながら、どすんと座る。

光男

…大事なことって？

まいこ

あん？

光男

しんじくんに言ってたでしょ。大事なことって、なに。

まいこ

あ…

大輔

あ、俺も気になった。

しんじ

あ、いや…なんでもないよ。

光男

なんでもないことないよ。大事なんだろう？優作くん。

優作

あ、いや、ほんとになんでもないです…

光男

そう？

優作

ほんとに。

光男

遺言書にかかわることなんじゃないの？

優作

そんなに大事なことじゃないです！ねえ？(しんじに)

しんじ

そんなことはないけど。

優作

え？

しんじ

大事だけども。

優作

しんちゃん。

しんじ

大事じゃないことないでしょ？

優作

大事じゃないことないけど、今はさ、ね。

光男

しんじくん？

優作

…大事じゃないんだ。

しんじ

そうじゃなくて。

優作

なんだよ、ゆうちゃんまで。

しんじ

しんちゃん。

優作

僕だってねえ、混乱してんだよ！なんで僕が工場やらなきやならないの。なんで結婚なんてしな

まいこ

いといけないの。女の子とお見合い？冗談じゃないよ！

しんじ

ちよっとしんじ。

姉ちゃんばっかり大変みたい顔してさ、なんだよそれ。姉ちゃんさ、父さん死んだってたいしたことないんだろ？



さおり  
まいこ

だから、それだけはわかります。  
…

吉田とみずえが戻ってくる。

大輔

おばさん、

みずえ

どうしたの、しめっぼい。

大輔

え？

みずえ  
しんじ

大丈夫、大丈夫。ごめんねー。頭に血のぼっちゃった。血管きれちやうとこだった。母さん。

みずえ

優作、これ、アイスノンどうもね。

優作

あ、はい…

みずえ

まだ冷たいから目にあてときなさい。まだ赤いわよ。

優作

えっ（目をかくす）

みずえ

（座る）あーよかった。大輔もいて。戸田さんもいた。

さおり

すみません…帰ります。

みずえ

いいの。いいの。いてちようだい。

さおり

え？

みずえ

遺言書あけるから、いてちようだい。

大輔

あけるんですか？

みずえ

そうよ。そのために集まってるのよ。

大輔

そうですけど。

さおり

わたし、いていいんですか。

みずえ

いたほうがいいでしょ。ねえ。仕方無いものね。

さおり

…

まいこ

お母さん。

みずえ

さ、あけましょ。ささっと終わらせちやいましょ。おまたせしちやったしね。

まいこ

お母さん、

みずえ

なあに。

まいこ

いいんじゃないの？今日じゃなくても。

みずえ

だって、しょうがないでしょ。お父さんは今日って言ったのよ。

しんじ

母さん、無理しなくていいよ。

みずえ

無理なんてしてないわよ。なんなのー？ああ、しめっぼい。

しんじ

…

みずえ

大輔

大輔

はい。

みずえ

さ、あけてちようだい。

大輔

…

みずえ

いいから早くあけちやいなさい。

しんじ

母さん。

みずえ

なあに。

しんじ

やめなよ。

みずえ

…

しんじ

やめなよ、もう。

みずえ

…

しんじ

…

みずえ

…

しんじ

…

吉田

おい、しんじ、



みづえ  
まいこ  
しんじ  
まいこ  
みづえ  
まいこ  
みづえ  
まいこ

： 平気なわけないでしょ。

： 平気なわけないでしょ。でも平気なふりするしかないでしょ。

まいこ。

だってそうでしょう。

まいこ。

お父さん死んだと思つたら、すぐお通夜。告別式やって火葬場行ってあいさつして、すぐ初七日。で、落ち着くと思つたらこれだ。浸ってる暇なんてなかったよ。今から浸ろうと思つてももうよくわかんないの。そうでしょう。だったら平気にいるしかないでしょ。平気なふりするしかないでしょ。あんただってそうでしょう。

： よくそんなことが言えるよ。

しんじ  
まいこ  
しんじ  
みづえ

： いいんだって。まいこ。しんじはしんじで辛いんだろうから、いいんだって。まいこも、いいんだって。そんなに気張らなくても。

だって、気張ってないと、だめじゃない。

だから、それは今日でおしまいにしなさい。ね？まいこ。

だって、お母さんが、

わたし？わたしは大丈夫。心配かけてた？

そりやそうでしょう。

まいこのほうが心配だよ。

わたしはいいんだって。

よくないよ。あんたはいつつもそうだから。

： しんじだって心配してるんだよ。ねえ。

みづえ  
しんじ

お父さんだって、そうでしょう。あんたはお父さんと似たところあるから。普段はのんきなふりしてすーくがんばっちゃうから。こつそりがんばるからわかんないんだけど。こつちが気づいた時にはがんばりすぎちゃってんのよ。

： 遺言書、あければおわり。お父さん、ちゃんと書いてくれてるから。ね。

： 何書いてるかは知らないよ。でも、お父さんのことだもん。ちゃんとしてくれるから。きっと。

(うなづく)

ごめんね。

…？

でもねえ、お母さんあけてみたいの。お父さんがどうしたかったのか知りたいの。わかってるつもりだったんだけど、お父さんのこと。たいして知らないのかなーって思つて。だからね、知りたいの。お父さんのこと。わかるでしょう。

まいこ  
みづえ  
大輔  
みづえ  
大輔

大輔

はい。

おねがいます。

じゃ…

大輔 かばんから大きな封筒を取り出す。A4サイズ以上。

吉田

そんなデカイのか！

大輔 そうなんですよ。デカいんですよ。  
吉田 俺、違うもの想像してたわ。  
優作 父さん、うるさい。  
吉田 何を!?  
大輔 じゃ、あけますよ。  
みずえ はい。

大輔 ペーパーナイフで上のほうを切る。  
まわりを見渡して、中を見る。  
一堂、緊張の面持ち。

大輔 あれ?  
光男 え?  
大輔 いや…ちよつと待っててください?  
吉田 どした?  
大輔 また、封筒が。

中から、一回り小さい封筒を取り出す。

吉田 お前、ほんとうに中身しらんかったのか。  
大輔 知りませんよ。おじさん、封までしちゃってたんですから。  
しんじ なんだっけ、こういうの。  
光男 マトリョーシカ。  
しんじ ああ、そうそう。  
まいこ しんじ。  
吉田 ごめん。  
大輔 ほかに何もはいつてないのか?  
この封筒だけですな。じゃ、改めまして。あけますよ。

大輔 ペーパーナイフで上のほうを切る。  
まわりを見廻して、中を見る。  
一堂、緊張の面持ち。

大輔 (封筒に顔を近づける) ん?  
吉田 今度はなんだ。  
大輔 いえ…あれ?

大輔 封筒を逆さにして封筒を振り、中のものを手のひらに落とし出す。  
それを、テーブルの上に置く。  
一堂、テーブルの上に注目。  
白い小さい包み。

まいこ え?  
しんじ なんだ、これ?  
吉田 大輔、ほかに入ってるべ?  
大輔 (封筒を覗いて) これだけです。  
吉田 またまたあ。どれ(封筒をもらい中身を見る)…ないな。  
大輔 はい。  
みずえ まいこ。

まいこ、包みをひらく。  
飴が3個出てきた。

光男 飴？

しんじ 飴だ。

吉田 飴か…

光男 何の意味があるんですか？

吉田 光男くん、ちよつと黙ってて。

光男 すいません。

みずえ 大輔、これで終わり？

大輔 はい。

さおり 3つ。

吉田 誰に、だろうな。

沈黙

さおり、飴に手をのばし、3つとも手にとる。

まいこ ちよつと、

さおり 盗もうなんて思ってません。

さおり、飴をまいこ、しんじ、みずえの前に置く。

さおり こうじゃないんですか。それ、すごく欲しいけどわたしの分はないですよ。わたしだって、~~それ~~くらいわかります。

まいこ …

大輔 もしくは、(みずえの前の飴をさおりの前に置く)こっか。

さおり いえ、

吉田 かもしれないな。

みずえ …

吉田 まいちゃん、食べたなら？

まいこ …

吉田 食べてみな。

まいこ …

まいこ、飴を食べる。

まいこ 新しい飴だ。

みずえ …

しんじ …

吉田 噛まないで食えよ。

まいこ おいしい。

しんじ、飴を食べる。

みずえ こんなので、いつ作ってたんですかね。

吉田 俺も知りません。見たことない飴です。

まいこ おいしいね。(しんじに)

しんじ うん。  
さおり ……  
しんじ (さおりに) うらやましいだろ。  
さおり ……うらやましい。

しんじ、ガリつと飴を噛み、口の中に手をいれて小さい飴のかけらをだす。

まいこ しんじ？  
しんじ 姉ちゃんは飴好きだから絶対くれないから。俺は歯の健康に気をつかってるからちよつとでいいの。でも、ちよつとしかあげないけど。  
さおり ……  
さおり よだれまみれだけど。  
しんじ ……  
さおり いるの？いらないの？  
しんじ いいの？  
さおり べたべたするからいるなら早くして。

さおり、しんじから受け取るうと手を伸ばすが、みずえが横から手をのばし、飴を取る。

しんじ 母さん？  
みずえ わたし、これでいいわ。  
しんじ ……  
まいこ お母さん？  
みずえ ありがとう、しんじ。

と、しんじから受け取った飴を食べる。

みずえ うん、おいしい。戸田さん、それ、食べたら？  
さおり ……  
みずえ 遠慮してたらまいこに取られちゃうわよ。  
さおり ……でも。  
みずえ 大輔。そういうことですよ。ほんとに、うちのお父さんははっきり言わないわよねえ。  
さおり すいません。  
みずえ なんであんたが謝るの。お父さんですよ。謝るのは。  
まいこ いいんですか。  
しんじ いいもなにも、きつとそういうことよ。  
みずえ お母さん。  
しんじ お母さん、いいの。  
みずえ わたし、しんじからもらったもの。  
しんじ ……  
みずえ ……でも、きつとそういうことよ。  
しんじ ……  
みずえ 戸田さん、食べてみたら。

さおり、飴を食べる。

さおり ……いちごの味がする。  
しんじ うまい？

さおり  
しんじ  
さおり  
まいこ  
さおり

：甘い。  
うまいって言えよ。  
うまい。  
大事に、食べてよね。  
はい。

4人、飴を食べる。  
静かな時間。

大輔 封筒の中身をもう一度みる。  
つづいて、光男も中身を見る。  
吉田も再度確認する。

大輔

他にはやっぱり入ってませんね。

吉田

社長：

光男

結局、なにもわからなかったじゃないですか。

吉田

そっだな：

光男

僕が跡継ぐことはないですよね？

吉田

え？

光男

それだけが心配で。

吉田

ないよ。ないない。

大輔

ないですよ。

光男

ほんとうですか。

吉田

ほんとうだよ。しんじが彼女連れてくるんだべ？

しんじ

え！？

吉田

そういう話だったべや。

みずえ

そっなの！？しんじ。

しんじ

いや、ちがうよ、無理。ね、姉ちゃん。

みずえ

あ、うん。だめだと思う。

しんじ

しんじが継いでくれるなら、それはわたしも賛成。

みずえ

だから、ダメだって。継がないよ、俺。ね？姉ちゃん。

まいこ

そっだよね。継がないよね。ねえ、優作。

優作

え？

まいこ

あ。

吉田

何言ってるの、まいちゃん。優作は後継ぎになんかできないよ。

まいこ

そっだよね！。

みずえ

それでもいいわよ、わたし。

優作

え？

みずえ

しんじと優作で工場、やつてくれてもいいんじゃない？吉田さん。

吉田

みずえさん、それはどうさ。

みずえ

大丈夫そうじゃない。ねえ。

吉田

まあ、一つの方法だけでもさ…

しんじ

いや、それはちょっと、

まいこ

ねえ。それはねえ。

優作

：僕、それでもいいよ。

しんじ

え！？

まいこ

優作！？

優作

僕、それでもいい。しんちゃんがやるなら僕、工場やるよ。

吉田

優作！

しんじ ちよつとゆうちゃん、よく考えて？  
優作 いや、意外といい考えだと思わない？しんちゃん。だつてさあそれつて。(じふふと笑う)  
しんじ ちよつと！ゆうちゃん！  
光男 僕は応援するよ？しんじくん。優作君。  
まいこ だから、そういうのがいやなの！  
まいこ どうしていやなの？  
まいこ ああ、腹立つ！  
みずえ ちよつと、喧嘩しないで。  
吉田 なに？やるんだべ？工場  
しんじ いや、ゆつくり考えましよう！ね！  
優作 しんちゃん、やろうよ。  
しんじ ゆうちちゃん、ちゃんと考えよう？大ちゃん、ちよつとなんか言つてよ。  
大輔 やればいいべ。  
しんじ 大ちゃん！  
大輔 それが一番丸く収まるぞ。

家のチャイムが鳴る。

みずえ あら、誰かきた。  
しんじ 僕、出る。

しんじ、逃げるように玄関へ。

吉田 (しんじに) 見合いはするか？  
優作 しないよ！  
吉田 お前じゃないよ、しんじだよ。  
優作 しんちゃんもしないよ。  
吉田 なんですよ。  
優作 なんでもだよ。  
光男 吉田さん、そこは僕からもお願いします。  
まいこ だから、やめてつて！  
光男 なんですよ。  
みずえ 喧嘩しないで、  
さおり ああ！！！！

一堂、静止。

まいこ なに？  
さおり 飴、のんじやった。  
まいこ はあ！？  
さおり 緊張して…  
光男 そりや緊張するよねえ。  
さおり あとちよつとだつたんですけど…。  
まいこ 大事に食べてつて言つたじゃない。  
光男 まいこだつていつつも噛んでるじゃない。  
まいこ それとこれとは違うの！  
みずえ 喧嘩しないの。  
吉田 優作も見合いするか？  
優作 え！？

吉田 しんじとダブルお見合い。  
まいこ ダメだよ、吉田さん！  
吉田 なんて。  
光男 それは僕も反対です。  
吉田 なんて。  
光男 あのですね…  
まいこ 光男くんは黙ってて！  
光男 なんて。  
吉田 いいべや、ダブルお見合い。いやいや、照れるな。  
優作 しないよ！？  
吉田 なんてよ。  
優作 しんちゃん！

しんじ、小さな小包を持って駆け込んでくる。  
そのまま立ち尽くす。

優作 しんちゃん？  
まいこ しんじ？  
みずえ どうしたの。  
しんじ お父さんから。お母さんに。

と、持っていた小包を差し出す。

まいこ え？  
みずえ お父さんから？  
大輔 おばさんにですよ。  
みずえ 大輔。  
大輔 これがたぶん、最後の遺言です。

みずえ、小包を受け取り、箱を開ける。  
中から手紙を取り出し、目を通す。  
箱の中をじっと見て、中からひとつ飴を取り出し口に入れる。

終